

# FOYER



舞台技術の基礎講座  
ひとつの舞台をつくりあげる  
舞台技術者の仕事体験

Special feature  
ホールの部分利用  
限られたスペースの中で  
エンターテインメントの  
未来を描こう

What is partial use?

**NHK 音楽祭**  
～未来へ～  
**2021**  
MEET the CLASSICS

## 九州交響楽団

指揮：田中祐子 ピアノ：金子三勇士

きらめく音色と強靱なテクニックー  
人気のピアニストが本領を発揮するリスト。  
豊かな色彩が乱舞するベルリオーズも必聴!

**Yuko Tanaka** **Miyuji Kaneko**

ベルリオーズ／序曲「ローマの謝肉祭」作品9 Berlioz: "Roman Carnival" Overture Op.9  
リスト／ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 Liszt: Piano Concerto No.1 in E-flat Major  
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14 Berlioz: Symphonie fantastique Op.14

2021年11月3日(水・祝) 16:00開演 (15:00開場/18:00終演予定) **熊本県立劇場コンサートホール**  
S席:¥6,000 A席:¥5,000 B席:¥4,000 C席:¥2,500 (消費税込) **前売券 好評販売中**

※チケットのご購入前に必ず、NHK音楽祭ホームページ (https://www.nhk-p.co.jp/) で新型コロナウイルス感染症予防対策についてご確認ください。ご了承ください。ご購入・ご来場をお願い致します。  
※出演者・曲目・開演時間等に変更が生じる場合があります。その場合のチケットのお申し込み・購入後の変更、キャンセル、払い戻しはできません。※就学前のお子様のお同伴・入場はご遠慮ください。

<b>熊本県立劇場</b> TEL 096-363-2233 (電話では予約のみ可：9:00～19:00) ※休館日をのぞく。※販売初日は10時から受付。 <a href="https://yyk1.ka-ruku.com/kengeki-s/showList">https://yyk1.ka-ruku.com/kengeki-s/showList</a> (受付：24時間)	<b>熊日ブレイクガイド</b> TEL 096-327-2278 (窓口販売・電話受付とも10:30～18:30)	<b>チケットぴあ</b> Pコード 199-055 0570-02-9999 (音声応答電話予約) ※毎週火・水23:00～5:30は、システムメンテナンスのため受付休止となります。 <a href="https://w.pia.jp/t/nhkfes/">https://w.pia.jp/t/nhkfes/</a> (インターネット受付)	<b>イープラス</b> <a href="https://eplus.jp/nhk/">https://eplus.jp/nhk/</a> (インターネット受付)
--	--	--	--

主催：NHK熊本放送局、NHKエンタープライズ九州 共催：公益財団法人九州交響楽団 制作協力：NHKプロモーション  
協賛：Canon キヤノンマーケティングジャパン TOKAIグループ MIZUHO みずほ銀行

NHK 音楽祭 2021 Line Up			
10/9 (土)	オーケストラ・アンサンブル金沢	指揮：井上道義	ピアノ：奥井崇博 フルーツ：松木さや
10/20 (水)	仙台フィルハーモニー管弦楽団	指揮：高岡健	ピアノ：藤田真央
11/8 (月)	NHK交響楽団	指揮：尾高忠明	ピアノ：第18回ショパン国際ピアノコンクール最高位(予定)
11/25 (木)	日本センチュリー交響楽団	指揮：飯森範親	ピアノ：松田肇音

●お問い合わせ● ハローダイヤル TEL:050-5541-8600 9:00～20:00(無休)

**熊本県立劇場**  
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】  
公益財団法人 熊本県立劇場  
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971  
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】  
株式会社 ジャム  
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017  
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2021 autumn 発行日:2021.9.20 ※掲載内容は9.10現在のものです。

special feature  
ホールの部分利用

## 限られたスペースの中で エンターテインメントの 未来を描こう



ステージのみを使用した演劇公演のイメージ。撮影協力: CONTE & ACT 器(うつつ)、熊大演劇部

### ホールの部分利用が、 劇場の可能性を広げる

観客を入れた公演の自粛や、縮小といった措置が余儀なくされるこのコロナ禍において、演奏や演劇の専門ホールを有する劇場としてできることはないだろうか。

これまで県立劇場では、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、公演や練習、発表などの機会が制限されてきたアーティストの活動を、YouTubeでの配信等でバックアップしてきました。アーティスト自身も、オンラインを利用した活動を行うなど、演奏や演劇の可能性を模索。そこから新たな演奏や演劇の形も生まれるなど、エンターテインメントのあり方が進化していく面もありました。ただ舞台と観客の、熱を交換するような一体感や、場に漂う化学反応はライブだからこそ得られる特別なもの。コロナ禍においてもホールで演奏し、演じる機会をより多くつくり出すため、設置者である県と協議を重ね、熊本県立劇場条例の一部改正により、ホールの部分利用を可能とする新しい施設の使

用区分を設けました。これにより、通常の公演、規模を縮小した公演、無観客でのオンライン配信、練習での使用など、様々な形態によって使用区分の選択が可能に。

新たに設けた使用区分は3種類。ひとつ目は、ステージと1階客席、ホワイエの使用。2階、3階客席を使用せずに1階客席のみに観客を入れた形での公演が可能です。ふたつ目は、ステージのみの使用。ステージ練習や特設ステージ(舞台上にステージと客席を設けた小劇場形式の舞台)などの使用ができます。そして最後は、ホワイエのみの使用。サロンコンサート、レセプション、展示会などにも。いずれも観客を入れた公演や、無観客でのオンライン配信にも活用できます。今回の特集では、実際にホールの部分利用を活用した2つの団体をご紹介します。使用できるスペースが限られている分、アイデア次第ではホールの新たな使い方につながる可能性も秘めています。ここから、エンターテインメントの新たなムーブメントが生まれることがあ

# What is partial use ?

撮影協力

◎CONTE & ACT



うつつ  
器

◎熊大演劇部





マスク着用で行われた合唱の練習



使用区分・ステージ+1階客席+ホワイエの使用

8月7日・8日に開催された熊本県合唱コンクール。その前日に、コンサートホールのステージ、1階客席の使用区分で、高校2校、中学4校の6校の合唱部合同練習会が行われました。この練習会の発起人である必由館高校の古川かおり先生は、以前からコンクールと同じ条件で合唱の練習を行いたいと考え、準備をしてい



コンサートホールの響きを確認しながら、練習は進められた。

切りの状態で練習できる環境をつくりました。「本番と同じホールで、隣との距離を取って歌う感覚を、声の響きや残響を含めて確認できました。こういう場所で歌えるってとても幸せなことで、歌うことを肯定されている気分になります。贅沢な空間で、大好きなことができる。憧れの県劇で、高校生がヒールをはいた気分を味わえました」。必由館高校に割り当てられた3時間の練習の間、1階の客席には10名ほどの保護者の、子どもたちの生の合唱に聴き入る姿が見られました。

〈ホールの部分利用の使用区分と使用料金〉

◎コンサートホール

Table with 2 columns: Usage type and Standard fee percentage.

◎演劇ホール

Table with 2 columns: Usage type and Standard fee percentage.

【基準料金とは】

施設使用料にある入場料区分、使用日区分ごとに設定されたホール全体の使用料金のことです。以下QRコードからご確認いただけます。

コンサートホール 施設使用料



演劇ホール 施設使用料

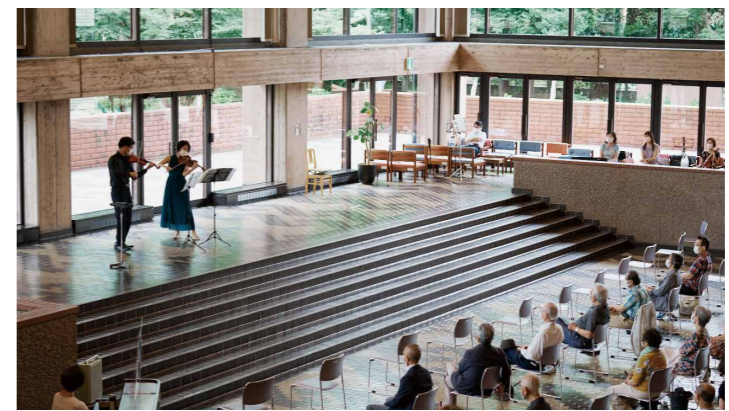


ホワイエコンサートでは、窓の外に広がる緑も、舞台の効果的演出に。

使用区分・ホワイエのみの使用 熊本交響楽団 ホワイエコンサート

7月22日、梅雨明けからしばらく経ったその日、県立劇場の外には夏の訪れを歓迎する蝉の鳴き声が響き渡っていました。

この日、コンサートホールのホワイエで開催されたのは、熊本交響楽団のコンサート。後援会向けのコンサートで、座席間隔を1メートルずつあげ、感染予防対策を講じた上で、ホワイエのみの使用で開催されました。この日のコンサートのため



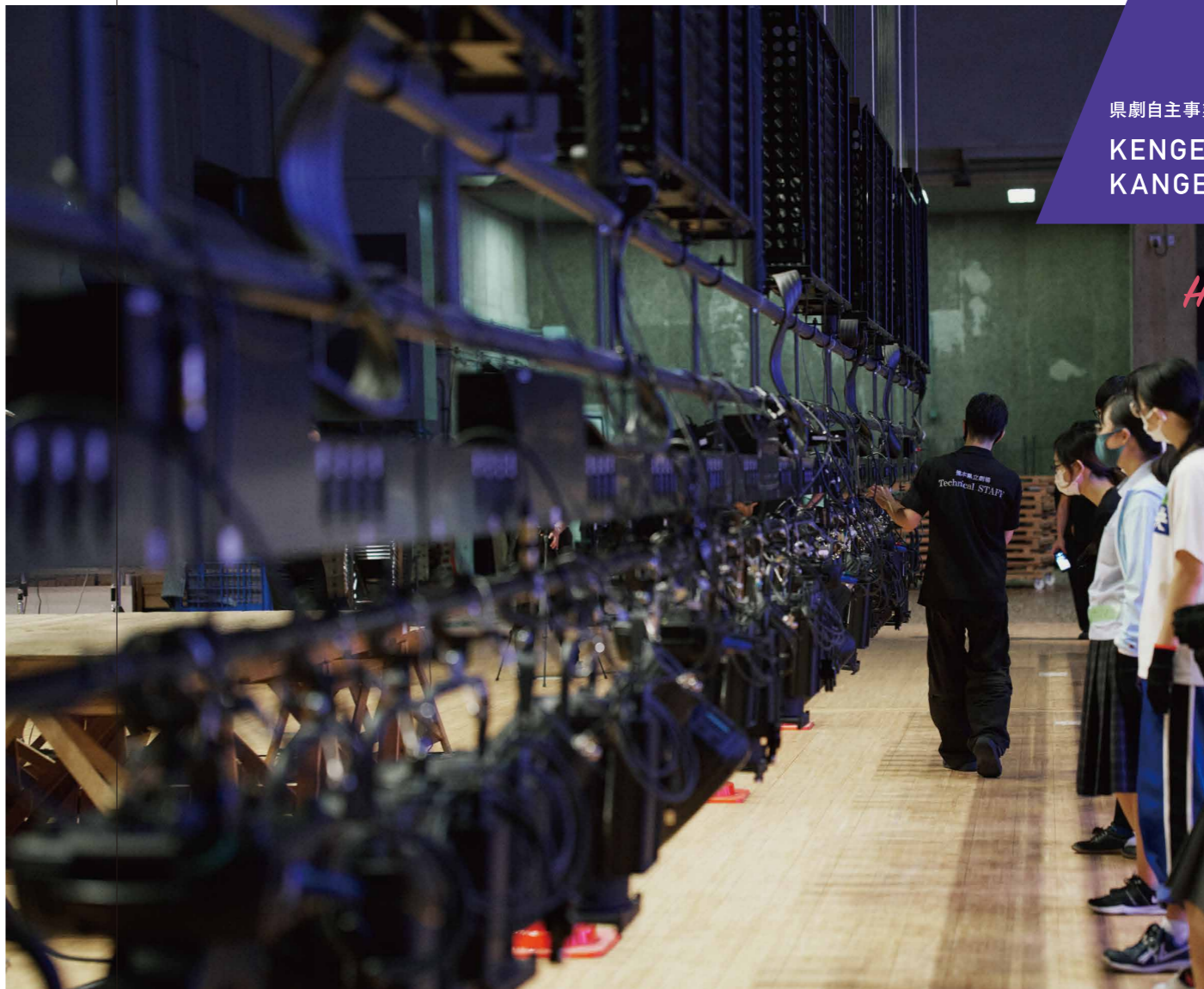
感染症対策として、座席の間隔をあげて客席をセッティング。

は蝉の音が聞こえ、季節感もいっしょに演奏を楽しめる、ホールとは一味違うコンサートになりました」。同楽団は、11月には定期演奏会を予定しており、その合同練習会をコンサートホールのステージのみを借りて行う予定。「コロナの影響で、大勢が集まって練習できる会場を探すのも一苦労です。舞台だけでも使用できる新しい取り組みは、大変ありがたい」と語ってくれました。

Highlight

舞台技術の基礎講座

7月17日(土)・18日(日)  
演劇ホール



照明器具の説明に、興味深く聞き入る参加者たち。

ひとつの舞台をつくりあげる  
舞台技術者の仕事体験

ひとつの舞台をつくりあげる。その背景には、舞台上に立つアーティストだけでなく、観客には見えない舞台裏で、地道で、細やかな作業を遂行する数多くの人の存在があります。

会場や出演者、スタッフを手配し、当日までの段取りを全体的に管理する制作、公演を広くPRするための広報など、関係するスタッフを挙げていくと、どれだけの人がひとつの舞台をつくりあげるためにいるのか、きつと驚くほどの人数です。舞台、音響、照明と、舞台をつくりあげる専門の舞台技術者もその一員。県立劇場には、公演を裏方として支える舞台技術者が、職員、委託を含めて10名いますが、全国的にも公共ホールの舞台技術者の人材不足、後進育成が大きな課題となっています。

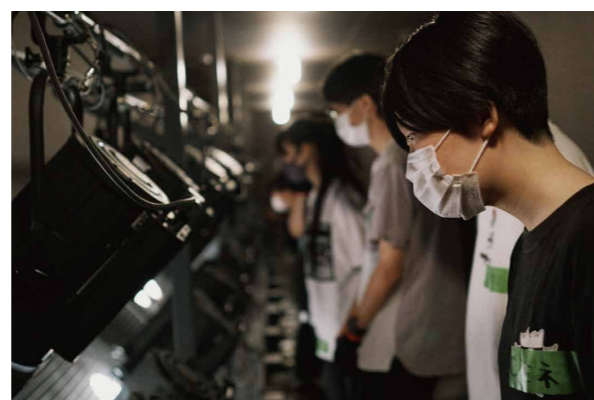
県立劇場ではこの課題に対し、2015(平成27)年度から舞台技術者育成に特化したプログラムを実施しています。今年度は、7月17日、18日の2日間で実施。対象者を高校、専門学校、大学生に限定して募集しました。2日間の講座でステージ上の



セティングだけでなく、片付けも仕事のひとつ。背景幕を参加者で畳む。

演出に必要な基礎的な技術を、県立劇場のスタッフが説明。舞台、音響、照明について体験し、学んだことをベースに、2日目の最後は熊本学園大学「スイングバンド研究部」の公演の実施までをプログラムに盛り込みました。参加者は、学校で演劇部や軽音楽部、映像研究部などに所属する30名。今回は、舞台技術者育成プログラムとしては初めてのバンドによる音楽公演をテーマにしたことから、熊本県高等学校軽音楽連盟からの多数の応募となりました。中にはTwitterで講座のことを知った県外からの応募もありました。

舞台を構成する演出に必要な道具、設備の名称、音響機材の設置や、サウンドチューニングの方法、色とりどりの照明をつくるテクニックなど、舞台、音響、照明のパートごとに、実際に舞台上の装置を使い、バンド公演の舞台をつくりながら、舞台技術の基礎を学びました。音響室、客席天井部にあるシーリングライト室など、普段は入ることができない場所での作業も体験。時に「シルエットの語源知ってる？」などの豆知識を交えながら講座は進められ、なごやかな雰囲気ながらも参加者の真剣に「学びたい」というまなざしが印象的でした。



上 客席天井部のシーリングライト部屋からステージを見下ろす。  
下 技術者には、次から次へと質問が投げかけられる。



左から  
中村真菜さん、遠山奈月さん



高校生の頃に所属していた演劇部で、公演の裏方を担当したことがあり、舞台技術の仕事に興味を持ちました。ひとつの舞台をつくり、誰かに観てもらおうとすることがとても楽しく、裏方として作品の一部になれる達成感が好きでした。経験したことがあったので、今回の講座内容は知っていることも多くありましたが、仕込みやリハーサルのおもしろさを改めて実感できました。

comment  
左 熊本県立大学3年  
中村真菜さん

大学では映像のことを勉強しているので、学生時代の時間を利用して、なんでも学びたいと思って参加しました。バイト募集していたら、すぐにも応募したいくらい、舞台技術の世界に興味があります。特に音楽に興味があり、最終的にバンド公演の舞台をつくるというお題があったので、とても楽しみにしていました。基礎的なことが中心でしたが、かなり有意義な時間でした。

右 熊本県立大学3年  
遠山奈月さん

## 熊本箏演奏者協会

どこからか  
箏の音色が響いてくる  
町づくりにも  
つなげていきたい

熊本箏演奏者協会は、1987（昭和62）年、熊本県内の箏指導者が流派を問わず集まって設立された団体です。現在は、県内の23名の先生によって構成され、お弟子さんを含めて200名以上が演奏会に参加しています。

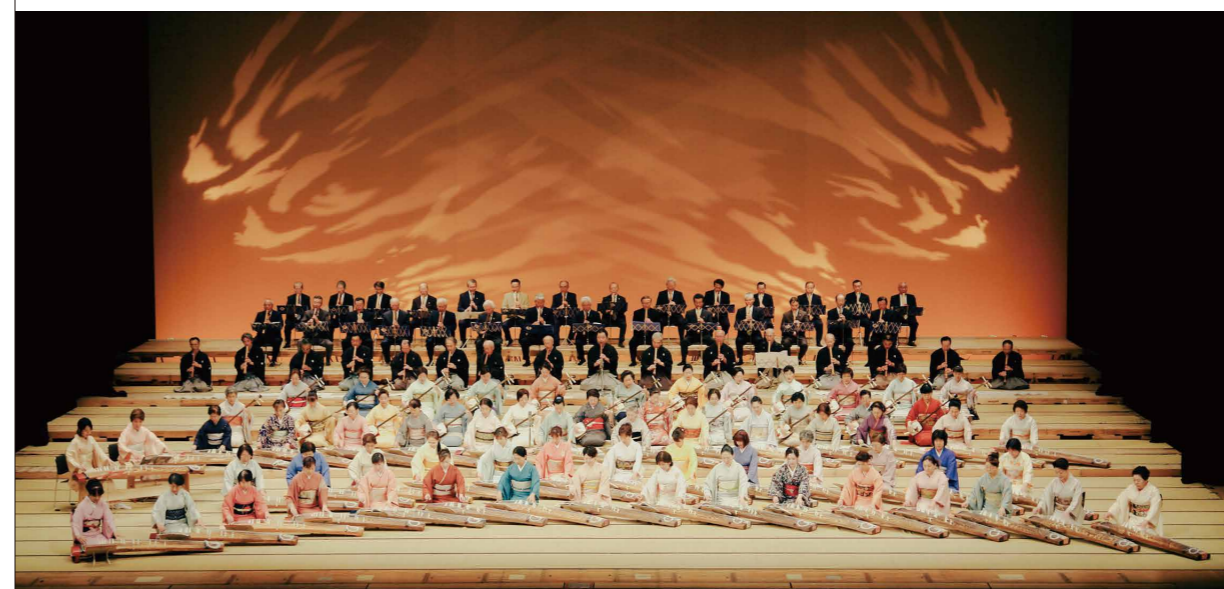
設立の背景には、その数年前に熊本県立劇場が完成し、各教室ではなかなか実現できない大きな会場での演奏会を開きたい、という思いがあったからといえます。設立初年度から協会主催で「箏曲の祭典」を県立劇場にて毎年秋に開催。2019（令和元）年には32回を迎えたものの、翌年からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年間休止しています。演奏会がないのは、協会設立以来はじめてのこと。箏曲の祭典は100名近い演奏者の大合奏の演目があるなど、幅広い年代の演奏



二宮 晶代 [にのみや まさよ]  
熊本箏演奏者協会 代表

者が参加するもの。「それぞれのお教室でのお稽古はできますが、この状況下では皆さんが集まる合同練習が難しく、開催を断念せざるを得ませんでした」と、熊本箏演奏者協会の代表である二宮晶代さん。演奏者にとってこのコロナ禍は試練ですが、「一方でもしっかりと実力を蓄える期間としても捉えている」といいます。

熊本箏演奏者協会のもうひとつの大きな取り組みが、隔年で開催している「全国邦楽ジュニアコンクール」です。箏、尺八、三絃の中学生以下の演奏者を対象に、全国から20名前後のエントリーがある邦楽のコンクールで、邦楽の演奏者育成を目的に行われています。会場の準備から、資金集め、プログラム作成、審査員の段取りなど、すべて協会で担当するため、かなりの労力であるものの「後進育成のために、なんとか続けていきたい」と、11回目となる今年は無観客で開催されました。今後の活動について、「大きな会場での演奏会だけでなく、町のどこからか箏の音色が響くような、町づくりにつながることもチャレンジしていきたい」と、二宮さんは締めくくりました。



2019（令和元）年に開催された「箏曲の祭典」。100名近くの大合奏は圧巻。



左から3年生の佐渡菜名さん、前田未来さん、猿渡梨那さん、丸山遙叶さん。「少人数なのでみんなで盛り上げていきたい」と部長の丸山さん。

## 菊池女子高等学校 郷土芸能部

### 地元の誇りである 菊池一族の 精神を受け継ぐ

平安時代の後期から室町時代にかけて、菊池市を中心に、その名を中央にまで轟かせていた豪族、菊池一族。忠誠心が強く、一時は九州の大半を制圧する武力を持ち、信義に篤く信念を貫き通した菊池一族の逸話は数多く、地元の誇りとして語り継がれています。その菊池一族の勇猛さ、精神を舞踊で表現したのが「菊池千本槍」です。菊池女子高校の郷土芸能部は、「菊池の、地元の誇りを見直そう」という歴史を掘り起こす地域の動きに呼応するように、1991（平成3）年に当時は日本舞踊部として活動していた部活動から、郷土芸能に特化した郷土芸能部としてスタート。甲冑、槍などの装具を鹿児島川内の戦国村（当時）で特別にあつらえ、故芳隆宣哉（ほうどうせんや）氏の指導のもと、毎年アレンジを変え、菊池一族の戦いを女子武者として演じ、表現しながら、郷土芸能を継承してきました。現在は、中村花誠氏の指導を受けています。多い時は30名の部員を有した時期もありましたが、現在は3年生4名と2年生3名の合計7名で活動しています。

### 舞台上で披露した後の 達成感が 部活動の楽しさ

日頃の練習の成果を発表する場は、文化祭や、地元のお祭り、招待されて参加するイベントなどありますが、今年には和歌山県で開催された全国高等学校総合文化祭（総文祭）の吟詠剣詩舞部門で出場。3年生4名で、菊池一族をテーマにした剣を使った舞で挑みました。県劇ほわいへの取材班が菊池女子高校を訪れたのは、総文祭直前の中学生向け一日体験入学の日。学校見学の中学生や保護者を前に、郷土芸能部の4名が本番さながらの剣舞を披露してくれました。彼女たちが着用しているのは、創部から受け継いできた甲冑と衣裳。勇ましく、凛とした表情で振るうのは、同じく30年もの間先輩たちも使っていた槍です。入部の動機を聞いてみると、4名中3名が部長の丸山さんから誘われて入ったとか。「練習に参加して、おもしろくなってきた」「大会に向けての準備がやりがいを感じ」「面倒だったけど、どんどん楽しくなった」と、総文祭への意気込みを語ってくれました。



今年8月に和歌山県で開催された総文祭には、3年生4名で参加。



熊本県立図書館タイアップ企画  
本の中にある劇場

熊本県立図書館と県立劇場のタイアップ企画として、2007(平成19)年度から県立劇場の文化事業に関連する図書や「〇〇を楽しむブックリスト」として紹介されています。作曲家や演奏家のこと、楽器にまつわる話や演劇の原作本。さらにはスポーツ、科学に関する本も！そして、今回スタートするほわいえ新企画「本の中にある劇場」では、県立図書館職員おススメの一冊をご紹介します。ここで紹介したおススメ本もブックリストの本も熊本県立図書館で読むことができますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



著/マシュー・トンプキンス 訳/定本六  
出版/日経ナショナルリファレンス社 日経PMマーケティング(金澤)

熊本県立図書館 情報支援課 指導主事  
小畑 祐介(おぼた ゆうすけ)

『トリックといかさま鑑』

中学生のとき、私は超能力者に憧れていました。人の心を読み、瞬間移動をし、スプーンを曲げる。私はほとんどできませんでしたが、マジシャンは舞台上でそういった不可思議を起こし、私は心を躍らせたものです。この本を読むと、超能力者とマジシャンは、人を騙すということについて、お互いに相容れなかったことが分かります。霊能者と名乗る人々が不可思議な現象を見世物にした時代を経て、舞台芸術家としてのマジシャンが生まれます。それから、マジシャンは自らの地位向上のために、嘘の霊能力をトリックを用いて看破します。それに対抗する霊能力を信じる科学者たち。この本は、騙し騙される歴史について、実際の写真資料を用い、自称、霊能力者・超能力者と、マジシャンというエンターティナーたちの戦いの歴史を追う一冊です。騙されることは幸せなのか。騙し騙されるのは何なのか。舞台上で繰り広げられているのはウソかホントか。見極めるのはあなた次第です。

あなたの楽器見せてください

熊本ウインドシンフォニー  
打楽器奏者・事務局長  
松村 貴之(まつむら たかゆき)

シンバル

パーカッション(打楽器)と一口に言っても、演奏する音楽のジャンルに合わせて多種多様な楽器を使用します。我々、社会人吹奏楽団は支援母体が無く、活動に関する資金は所属するメンバーから集めた団費を充てています。ただ、練習会場代等にも充てられるので、楽器購入費用となる資金は限られています。ティンパニや大太鼓等の皮物打楽器、シロフォン等に代表される鍵盤打楽器は廃棄になった楽器を譲って頂き練習しております。

シンバルも頂いた楽器があったのですが、どうしても音のイメージが合わず、新規購入となりました。シンバルは錫と銅の合金で出来ているのですが、今回購入した物は一般的な配合比とは異なるもので、響きの美しさ、倍音の豊かさから人気のあるシンバルです。コロナ禍で練習会場が使用できなくなることも多いですが、しっかり練習を重ねて県立劇場にシンバルを美しく響かせたいです。



松村 貴之  
【まつむら たかゆき】  
熊本ウインドシンフォニー  
打楽器奏者・事務局長



シンバル  
小出 センシティブ808シリーズ 18インチ  
808-S18CCML

スネアドラム  
Pearl Custom Classic 14'×5.5'  
CL1455SN/C

県劇スタッフリレーコラム  
施設サービスクループ  
城下 一誠(じょうげ いませい)

「逃げちゃだめだ」

今年、遂にエヴァンゲリオンがエンディングを迎えた。  
1995年に放送されたテレビアニメ版「新世紀エヴァンゲリオン」。正直「訳の分からないアニメ」だった。何が分からないって、内容を理解するのが難しく、特に最終回での結末は、その難しさに呆然とした。その後、劇場版として二作映画化されたが、当時学生だった私には、何が面白いのかわからなかった。  
そんなアニメが新劇場版として四部作映画となり、今年その最後の映画が公開された。  
エヴァは、人によって様々な捉え方をしていると思う。人間の行動、思想、概念……。それは単純なロボットアニメと違う、「大人のアニメ」だった。ストーリーがどのように展開するのかを最後まで予想させなかったからこそ、四半世紀にわたり、長くファン的心を惹きつけるモンスターアニメになったのだろう。大人になって、やっと自分なりにエヴァを解釈できるようになっ

たつもりだ。今作を観た感想までは述べないが、エヴァンゲリオンの「終劇」にふさわしい結末だった。そう、シンジ君は、やり遂げたのだ。エンドロールが流れる間、その無機質な画に反比例するように感動が心の中でこぼれました。

私は人を頼るのが苦手だ。何事も自分でやり遂げたいという思いと人に迷惑を掛けたくないという思いからのだが、ときに無理してしまうところがある。でも、正直一人じゃ何かをやり遂げることは難しい。家庭でも職場でも、周りにはたくさんの人がいて、支え合っている。このコロナ禍でさらにそのことに気づかされ、そのありがたみを感じている。

ああ、シンジ君……。物事を決断し、そして、仲間を信じ、最後までやり遂げた君は凄いよ。私は、君よりだいぶ年上だけど、今からでも、君みたいに出来るだろうかいや、なれる。シンジ君のように、自分のペースで一步一步前進していくよ。そして、君が最後に見せてくれた、とびきりの笑顔ができるように私も頑張ってみようよ。

今日も自分に言い聞かせる。  
「逃げちゃだめだ」と。

寄稿

益城町文化会館 館長  
山口 亮二

小曾根 真  
60TH BIRTHDAY SOLO  
OZONE 60 CLASSIC×JAZZ

2021年7月4日  
益城町文化会館

熊本地震災害復旧工事のため平成30年7月から休止し、丸3年を経た本年7月より再開した益城町文化会館では、リネオアルオープン記念の自主事業として小曾根真氏のソロコンサートの開催が実現しました。  
世界的なジャズピアニスト、小曾根氏の60歳の誕生日を記念してリリースされたCDに入れられた曲を中心にクラシックとジャズの両方をプログラムに乗せたコンサートは再開記念として相応しいものとなりました。

ホール自慢の1台であるスタインウェイのピアノはメンテナンスを行っていたとはいえ、本格的に演奏される機会は3年間なかったため、小曾根氏本人も「だんだん目が覚めてきた」と表現されたようにしだいに豊かな音色・色彩を奏で、ホールの自慢の響きと相まって満員の聴衆を魅了するすてきな演奏でした。

ホールスタッフとのやり取りや、コンサートでのトークなどからも小曾根さんの温かく素晴らしい人柄が感じられ、リネオアルの最初にこのような素晴らしいコンサートを開催出来ました事、大変嬉しく思います。

小曾根さんへの感謝と共に、このコンサートの開催にあたり、ネットワーク事業としてご支援ご協力いただいた熊本県立劇場の皆様にも心からお礼を申し上げます。